

### 3-2 市街地都市構造への課題

#### (1) 居住地域の高齢社会への対応

標茶町の人口のうち、現在おおよそ5人に1人が65歳以上の高齢者ですが、10年後には約4人に1人の高齢者割合になろうとしています。

定住人口の安定化や交流人口の定住化の積極的な取り組みによって、急速な高齢化傾向に歯止めをかけていきますが、高齢社会に対応した道路や公共施設のバリアフリー化など高齢者にやさしいまちづくりが必要とされています。

また、高齢者だけではなく障害者や幼児などの生活弱者及びあらゆる人達が安全に安心して生活できるように、ユニバーサルデザインによるまちづくりが求められています。

#### (2) 中心市街地の活力低下への対応

標茶町の商業事情は、ここ最近の消費者ニーズの多様化、モータリゼーションの進展による消費活動の広域化及び大型店舗が集積する釧路市、釧路町などの影響を強く受けています。

このような状況のもと、町外への消費流出を抑制するため様々な取り組みもなされておりますが、商店街については、依然として活力の低下が懸念されています。

後継者不足の改善と商店街としての連携の強化、そして商業施設の集積化が望まれます。また、高齢社会を意識した、高齢者にやさしいまちづくりが必要となっています。

かつてのにぎわいを取り戻し、標茶町の顔を担う魅力ある商店街づくりのため、商店街再編への対応が求められています。

#### (3) 住環境の向上と都市機能の充実

標茶市街地は、昭和28年の駅前の大火により、一部火災復興区画整理事業が実施され、それ以外の地区においても、公共・公益施設（道路・公園・下水道）の整備の必要性や、秩序ある都市的土地利用の必要性から、平成7年度で完了した川東土地区画整理事業を実施し、平成9年度より鉄東土地区画整理事業として実施しています。

一方、駅前中央通を含む中心市街地は、商業拠点として快適で利便性の高い、人にやさしい環境整備が必要となっています。

都市計画街路においては、国道391号の拡幅工事が完了、国道274号も現状用地内での改良工事が完了しています。また、旭・常盤地区を結ぶ「ときわ橋」が完成し、交通機能の充実がはかられていますが、未整備街路の整備計画と老朽化に伴う既存街路の改築が必要となっています。

また、都市公園については、計画的に整備を進めてきたところですが、既存公園の老朽化が進み、再配置の検討と再整備が必要となっています。

市街地の拡大や区域界の明確化のため、都市計画区域及び用途地域の変更が必要となっています。

さらに、都市計画全体について、住民の理解と参加のもとに将来のあるべき姿をより具体的に明示し、地域における都市づくりの課題と整備の方針が必要となっています。

#### (4) 住民と行政の協調

これまでのまちづくりは、どちらかという行政主導によるところが大きく、住民の参加できる範囲はごく限られた部分でした。

しかし、これからの幅広い多種多様なニーズに対応していくためには、行政が対応できない細かな部分を住民や民間などが補っていく必要があります。

住民と行政が互いに協調して取り組んでいける体制づくりとして、平成12年に施行された情報公開条例をはじめとして、今後も相互の信頼関係のもと対等な立場でのまちづくりの取り組みが求められます。